

愛荘町の指定文化財①

紙本著色
しほんちやくしよく

矢取地蔵縁起絵巻

(個人蔵)

平成二十年三月に町文化財に指定されたこの絵巻物は、岩倉にある仏心寺(旧金台寺)に鎮座する地蔵尊、通称矢取地蔵の霊験を語った縁起絵巻です。

この縁起は有名な逸話集『今昔物語』や各種の「靈験記」に記載されるもので、巻物の奥書には、享徳二年(一四五三)と記され、室町時代中期の作品であることがわかります。

紙本著色の幅三四・一センチ長さ六一四・四センチで、全体的に淡い色彩で描かれ、稚拙で素朴に描かれるところは、室町時代の絵巻物の特色をよく表しています。人物の描写は精緻で、面貌の表現も類型化せず、それぞれの表情



がよく描かれています。

画風は宮廷絵師であった土佐派の流れによるものと見られ、顔料も質のよいものを用い、後世の補色が見られず当初の状態を伝えるものです。内容は、安孫子郷と押立保との水利を争う戦いが描かれています。

安孫子郷を守る平諸道の父が、隣郷の押立保の軍勢に攻撃を受け、家人わずか六人で応戦します。しかし、多勢に無勢、矢も尽き果てて、もはやこれまでと一心に地藏菩薩を念じたところ、戦場に小法師が現れ、矢を拾い集めて味方に渡します。小法師は敵の矢を受け、姿を消しますが、渡された矢は悉く相手に命中して、敵を退け勝利します。

翌日、戦勝のお礼に地藏堂に参ると、地藏尊のお顔に矢が刺さっており、すぐさま戦場で見た小法師がこの地藏尊の化身であったことに気が付き、随喜の涙を流します。

その後、岩倉山に御堂を建て、この地藏尊を安置したというものです。

縁起絵巻は文章を交え、二部構成で描かれ、後世、源朝臣高春が絵師に命じて描かせ、寄進したと記されています。

大友暢(歴史文化博物館)

編集後記

2020年前半、新型コロナウイルスが襲った世界は、医療と経済の危機に侵され、社会と私たちの日常生活にも大きな変化がありました。

6月議会は、コロナ禍の中で3蜜にならないように努め、会議も出来る限り短時間で実施しました。住民の皆様におかれましては、コロナ感染防止・熱中症対策に十分お気を付けてください。

日々感染状況が変化するなか、議会としての確な情報を発信していきます。

今後とも「議会だより」をご愛読いただければ幸いです。

村田 定 記

【発行責任者】

議長 河村 善一

【広報常任委員会】

委員長 森野 隆

副委員長 村西 作雄

委員 澤田 源宏

委員 村田 定

委員 伊谷 正昭

委員 瀧 すみ江